



2022 年度
第 36 号

体育市民連帯 ニュースレター

大韓民国スポーツの

根本的変化を

皆さんと共に

作って行きたいです

体育市民連帯と共に

していただけますか？

元国家代表コーチの
未成年生徒性暴行事件を
きっかけに見た
「現場」と「現象」の間



フィギュア国家代表出身の
李ギュヒョンコーチ
10 代弟子に
性的暴行容疑で起訴



平日大会禁止…
実効性も保護も良いが
「幸せな選手」を
育てなければならない



専門大学も
2025 学年度
体育特技者を選抜時
「校内暴力」を反映する



双子波紋その後…
誓約書だけでは
事実確認難しい
もどかしい



01 体育市民連帶論評

元国家代表コーチの未成年生徒性暴行事件をきっかけに見た 「現場」と「現象」の間

フィギュアスケート国家代表出身のコーチが拘束されたことが知られ、世論の非難を浴びている。90年代からエリート選手生活をし、2003年に指導者に転向した彼は、2005年、通行人を車でひいて死亡させた後、逃げたひき逃げ容疑と3度の飲酒運転前科がある。

大韓スケート競技連盟はこれを指導者欠格事由として考慮していないようだ。2022年8月、彼は未成年の教え子に性的暴行を加える重罪を犯した。

2019年2月、スポーツ革新委員会はスポーツ MeToo 事件以後、体育分野構造革新のために1年間活動し計7回の勧告案を発表した。現場の声を反映し、各省庁で勧告履行の意志を示した。3年が過ぎた今、体育界はまだ人権にやさしい雰囲気形成されていない。指導者は選手に暴行を加え、選手は報復を恐れて通報を憚る。合宿所で後輩たちは先輩たちの服を集めて洗濯し、一言で遠い距離のコンビニに行っていなければならない。成人になって髪を染めてパーマをかけたいが、指導教授と監督は「運動選手がその髪は何だ」として再び美容室に送り返す。そんな中、文化体育観光部は8月29日、スポーツ革新委員会の勧告案を全面的に再検討すると明らかにした。彼らが言う「現場」で勧告案を履行する意志がないということだ。

さまざまな美辞麗句をつけて、それぞれの論理で勧告案の再検討を合理化しようとするが、結局、彼らが言う「現場」は、当面の入賞実績が最も重要な価値だと考える集団のようだ。運動部は一般学生と違うという認識を貫こうとし、入賞のためには手段と方法を選ばない。その結果、選手は「明け方、午前、午後、夜間」という運動スケジュールを通達されることになる。彼らの主張どおり「出席認定欠席日数」が増えれば学生選手たちが授業を聞く時間が減り、学校は公文書を提出しに行く所になることもありうる。学生選手の「運動権」主張に力が加わるほど、非人気種目やトレーニング空間貸与に困難が伴う種目の選手たちは罪悪にさらされやすい集団になる。劣悪な環境で選手生活を続けるためには、人権侵害問題ぐらいは我慢しなければならない慣行のように思われるのだ。

実際、スケート種目の場合、運動環境が劣悪で指導者に強大な権利が独占されている。指導者の言うことに従わないのが難しい構造だ。選手たちの自己決定権がないのもこのためだ。そのため、自然に指導者への依存度が高まるしかなかった。このような構造的問題を「現場」関係者たちは知っていた。「現場」関係者たちは人権侵害問題が発生し、選手たちが被害を訴えても事件を覆い隠したりすることに汲々とし、これまで選手たちはどこでも保護を受けることができなかった。あげくの果てに加害者が再び現場に戻って同じ空間で訓練する場合も日常茶飯事だった。このような問題が解決されていない状態で、最近また指導者が未成年の教え子に性的暴行を加える天人共に怒る事件が発生したのだ。したがって一連の事件は個人の問題ではなく連盟と協会、ひいては彼らがあれほど大声で呼ぶ「現場」に責任があり、彼らが変わらなければならないのだ。

全国に数多くのアスリートが限られたメダルをめぐる競争になるので、激しくなるのは理解できる。しかし、自分の子供が、自分の弟子がそのメダルを取らなければならないとして、入賞に最も大きな価値を置いてはならない。むしろ自分の子供、自分の弟子が生きていく日々は長く、選手生活は期限があることを悟らなければならない。リハビリや生理学に関心がある選手、マーケティングに関心のある選手がその夢を育てて選手出身の「現場専門家」になることもありうる。本当に選手たちのためなら、選手たちが一般学生と変わらず多様な分野で学習して体験し、夢と視野を拡張できるように努力しなければならない。歪曲され過熱した韓国スポーツの競争構造の中で「現場」関係者たちは選手たちに人権侵害問題をあたかも「成功には忍耐と苦難が伴う」というふうに教えるべきではない。「運動だけが生きる道だ」という言葉で選手たちの目と耳を塞いでもいけない。選手たちは暴力と差別のない環境で存在だけで尊重されなければならない。選手たちは一般の学生と一緒に学び、人権が保障される環境で楽しく運動しなければならない。これがスポーツ「現場」で目指すべき方向だ。

2022. 09. 13

02 聯合ニュース 2022. 09. 07

フィギュア国家代表出身の李ギュヒョンコーチ、 10代弟子に性的暴行容疑で起訴



フィギュアスケート国家代表出身の李ギュヒョン（42）コーチが未成年の教え子に性的暴行を加えた疑いで拘束され、裁判にかけられたことが確認された。

議政府地検南楊州支庁刑事1部（ソン・ジョンスク部長検事）は7日、先月中旬、性的暴力犯罪の処罰などに関する特例法違反などの疑いで、李コーチを拘束起訴したと発表した。

李氏は今年初め、自分が教えていた10代の弟子に性的暴行を加えた疑いだ。

この事件は当初、ソウル松坡警察署が捜査し、李氏を在宅起訴した後、ソウル東部地検に送致したが、先月初め、李氏の住所地である南楊州支庁に移牒された。

事件を引き受けた南楊州支庁は罪質が悪いと見て李氏に対する拘束令状を請求し、裁判所は証拠隠滅と逃走憂慮などを理由に令状を発行した。

李容疑者は性的暴行容疑について否認していると検察は伝えた。

スピードスケート国家代表選手出身の李ギュヒョク氏の弟でもある李氏は、1998年長野と2002年ソルトレイクなど冬季五輪に2回連続出場した記録を持っており、2003年引退後はコーチとして活動した。

大韓スケート競技連盟も該当事件と関連して事態の把握に乗り出した。

スケート連盟の関係者は「連盟もマスコミを通じて内容に接した。別に苦情や関連情報提供が入ってきたことはなかった」とし「李コーチは2021年までスケート連盟に指導者登録をしたが、今年は登録もしていない状態」と説明した。

連盟は事実確認のため、スポーツ倫理センターに調査を要請することにした。

関係者は「連盟が直接被害者を調査することは2次加害になりうるという人権専門家の意見、拘束中の加害者との接触が難しいという点などを考慮してスポーツ倫理センターを通じて調査を進行することにし

た」とし「今日中に申告書を作成し倫理センターに提出する計画だ。以後、調査がなされれば結果により懲戒可否を検討することにした」と伝えた。

さらに、李コーチの裁判進行の推移も見守る予定だ。

この関係者は「まだ調査が進行されていないだけに懲戒水準に対して答を出すことは難しいが、スポーツ公正委員会規定に合う措置をする」と話した。

文化体育観光部と大韓体育会は2019年ショートトラックなど体育界の性暴行事件が水面に現れるや、性暴行加害者に対する処罰を強化する対策を用意した経緯がある。

大韓体育会は当時、体育界の苛酷行為および(性)暴力根絶実行対策を通じて性暴行加害者を永久除名し、国内外就職を源泉遮断することにした。

出典：<https://www.yna.co.kr/view/AKR20220907024052060?input=1195m>

03 ハンス経済 2022.09.08

依然として熱い平日大会禁止…

実効性も保護も良いが、「幸せな選手」を育てなければならない



”スポーツの有望株が『幸せな選手』に生まれ変わる環境を作るのが先ではないでしょうか。”

卓球のシン・ユビン（18・大韓航空）とテニスのチョ・セヒョク（14）は「天才」という修飾語がつく共通点がある。

これだけではない。両選手とも運動に集中するため学業をあきらめた。シン・ユビンは高校進学をあきらめた後、実業チームに入団し、チョ・セヒョクは中学校を退学した。彼らが勉強をあきらめた理由は一つだ。運動と学業を並行するのが難しいからだ。

現在、学生選手たちは「出席認定欠席許容日数」規定により国家代表出場大会を除いては他の大会に出場することは難しい。「学生選手出席認定欠席許容日数」は初等学校10日、中学校15日、高等学校30日に過ぎない。種目別全国規模大会は3～5大会程度になる。種目別は大統領旗、会長旗、協会長杯など予選を含め通常2～4日間行われる。1年間に1～2大会だけ出場しても無断欠席は避けられない。もし並行するとしても問題だ。授業に重点を置くと、競争力が落ち、進学や実業チーム進出に悪影響を及ぼすことになる。

スポーツ革新委員会は2019年6月、学生選手の学習権保障のために▲出席認定日数縮小および学期中平日大会禁止▲学期中平日大会の週末大会への転換▲少年体育大会の改編などを文化体育観光部と教育部に勧告した経緯がある。しかし、父兄や指導者などは、「勉強する学生選手を育てるための政策が、かえって一部学生選手の進学の代わりに自主退学を招いた」と批判した。その上、革新委が勧告した週末大会の場合も、一部種目を除いては100%週末大会に転換した事例が珍しく実効性が劣るという不満も示した。

最近、文化体育観光部は革新委の一部勧告案に対する改善策作りを発表した。しかし、舌戦が続いている。スポーツ人権研究所と文化連帯案体育会、体育市民連帯は文体部の発表に対して直ちに反発に出た。「革新委は文体部傘下にあった。今になって現実とかけ離れたものだとけなす形は無責任だ」と皮肉った。

3 団体と同じ考えのある体育関係者は 5 日午後、本紙との通話で、「実効性の低いことだけを考えてはならない。 学生選手の進学と指導者の契約構造もよく見なければならぬ。 指導者の契約は選手の実績に基づく。 選手が大規模な大会で入賞する場合、より良い待遇を受ける」とし「そうなれば監督はひたすら成績だけを考えるようになる。 そうすれば過剰訓練、常時合宿など慣行問題が発生する可能性もある」と説明した。

京畿北部の A 高校サッカー指導者は、「現在、熱い話題になっている。 平日大会の賛否両論はもちろん重要だ。 しかし『幸せな選手』を作ることも重要だと思う」として「両親の手に押されてではなく、学生選手たちが自発的に運動に専念する環境を作ることがさらに重要ではないかと思う」と強調した。

選手保護も重要で実効性についての議論も重要だが、肝心なことが抜け落ちている。 学生選手たちが自分の未来について十分悩み、決定できる健康な雰囲気づくりが急がれる。

出典：<http://www.sporbiz.co.kr/news/articleView.html?idxno=631331>

04 聯合ニュース 2022.09.07

専門大学も 2025 学年度の体育特技者を選抜する際、「校内暴力」を反映する



2025 年度の大学入試で専門大学が体育特技者を選抜する際、校内暴力の履歴を反映する。

韓国短期大学教育協議会(専門大学教協)は専門大学総長と市・道教育監、高等学校校長、保護者団体などが参加する短期大学入学選考委員会を開き

「2025 学年度短期大学入学選考基本事項」を確定したと 7 日明らかにした。

政府の「学生運動部暴力根絶およびスポーツ人権保護体系改善方案」により 2025 学年度から各大学が体育特技者選抜時に教科成績、出席だけでなく学生選手暴力加害措置履歴を義務的に反映するようにした。

これに先立って韓国大学教育協議会(大教協)が発表した 2025 学年度一般大学入学選考基本事項でも体育特技者特別選考で学校暴力措置事項を必須的に反映するようにした。

2023 学年度から施行される「募集留保制」は今回の入学選考基本事項にも反映された。 学齢人口の減少に大学が入学定員を弾力的に調整できるようにした教育部関連告示により、一定期間入学定員の一部を留保できる制度だ。

また、大学は外国人留学生の誘致や成人学習者など生涯学習拡大のための定員外専担学科を運営して学生を募集することができる。

差等的な教育的補償が必要な人を選抜する「均等機会特別選考」の支援資格は、北朝鮮離脱住民、第 3 国生まれの北朝鮮離脱住民の子供、自立支援対象者まで拡大運営できるようにした。

2025 学年度短期大学選考日程は前年度と同じく随時募集は 2 次まで運営し、定時募集の場合は 1 回だけ実施する。

今回の基本事項と主な特徴は、専門大学ポータルプロカレッジ (www.procollege.kr) とホームページ (www.kcce.or.kr) に掲載される。

出典：<https://www.yna.co.kr/view/AKR20220907045800530?input=1195m>

双子波紋その後… 「誓約書だけでは事実確認難しい、もどかしい」



ここ数年、韓国のスポーツ界は校内暴力（学暴）で苦しんでいる。2017年プロ野球キウムヒーローズのアン・ウジン（23）を皮切りにバレーボール界、サッカー界などを席卷し、再び野球界に広がる様子だ。昨年が最も衝撃が大きかった。バレーボール界が直撃弾を受けた。昨年2月、Vリーグ女子部の李ジェヨン、李ダヨン（26）双子姉妹の過去の校内暴力に対する証言と暴露が相次いで出てきて議論が大きくなった。対処も不十分だった。双子姉妹は事態発生初期には自分たちのSNSに自筆謝罪文を載せ頭を下げる姿だった。しかし、2ヵ月後に自ら削除した。そして、かえって被害者を告訴した。姉妹は謝罪文を書いたのも球団と被害者の要求のためだと切り返した。すると大衆の非難世論が爆発した。

結局、双子の姉妹を最後までかばおうとした当時所属チームの興国生命さえ手を挙げざるを得なかった。興国生命は2人の選手登録をあきらめ、自由身分選手として登録しながら事実上放出した。大韓民国バレーボール協会も、国家代表の無期限選抜除外という懲戒を下した。

韓国でプレーする場所がなくなると、李ジェヨンと李ダヨンは昨シーズン、ギリシャリーグPAOKテッサロニキに移籍した。李ジェヨンは膝の負傷で早期帰国し、李ダヨンはシーズンを完走した後、ルーマニアリーグのラピド・ブカレストにチームを移した。

以後、プロバレーボール男子部の朴サンハ（36・現代キャピタル）とソン・ミョングン（29・OK金融グループ）、シム・ギョンスプ（31・引退）らも校内暴力の加害者として指摘された。バレーボール界を席卷した「校内暴力MeToo」は他の分野にも広がった。プロサッカーKリーグのキ・ソンヨン（33・FCソウル）も、校内暴力の議論に巻き込まれた。キ・ソンヨンは積極的に反論している。名誉毀損で5億ウォンの損害賠償請求訴訟を提起した状況だ。

最近再び球界が疲弊している。昨年2月、初めて校内暴力の議論が起こった斗山の李ヨンハ（25）とLGの金テヒョン（25）が裁判を受けることになった。当時、2人の選手は強く否定したが、被害者がスポーツ倫理センターに通報して再点火された。検察送致後、在宅起訴され、裁判を控えている。

このような校内暴力論難は分野を行き来しながら大きな影響を及ぼし、社会的問題になった。当時、文在寅大統領やチョン・セギョン首相も、この議論に触れるほどだった。

結局、政府が乗り出した。文化体育観光部と教育部は昨年2月「学校運動部暴力根絶およびスポーツ人権保護体系改善方案」を発表した。過去に起きた学校暴力事件に対する被害者中心の事件処理原則と基準を提示し、今後学校体育現場で暴力が根絶されるよう予防次元の制度改善と体育界全般の成績至上主義文化改善などの内容を盛り込んだ。

このような政府の動きを受け、スポーツ界も校内暴力の予防に乗り出した。いわゆる「校内暴力証明制」を施行する。韓国バレーボール連盟（KOVO）と韓国野球委員会（KBO）などは、校内暴力の履歴を持つ選手に対してドラフト参加と球団入団を制限する根拠を設けた。大韓体育会会員団体が主催する大会でも、校内暴力予防法上の処分結果によって参加制限から選手資格まで剥奪することができる。

しかし、事実かどうかを証明できないという問題点が提起されている。まず選手たちを信じて「過去に校内暴力がなかった」という誓約書を受け取るが、後で虚偽であることが明らかになれば球団も連盟と協会も困るからだ。

KOVOは5日に開かれたVリーグ女子部新人ドラフトを控えて選手たちから誓約書を受け取った。KOVO関係者は「選手登録の際、校内暴力と関連した誓約書を受け取った。学校長の捺印がされている」とし、「しかし連盟としては公権力がないため、事実かどうかは分からない状況だ。選手たちを信じるしかない。もどかしい部分はあるが規定があるので虚偽事実と明らかになれば今後賞罰委員会が開かれ懲戒が続くだろう」と明らかにした。

KBOも同様だ。15日に開かれる新人ドラフトを控えて参加申請のためには申請書と在学中の懲戒、負傷履歴を含め学校暴力関連誓約書、高等学校生活記録簿を本人同意の下に提出しなければならない。

プロ野球のある球団関係者は「プロの身分ならともかく、アマチュア所属の時に起きたことなので対応するのは難しい。選手たちを信じて指名するしかない」と同じ意見を出した。それと共に「来年から懲戒情報システムが施行されると理解している。懲戒履歴が入力されるので、今年のように書類を受け取るよりはましかもしれない」と説明した。

出典：<https://star.mt.co.kr/stview.php?no=2022090522473032587>

06 週刊スポーツニュース

スポーツ倫理センター、「選手登録権限パワハラ」協会長に懲戒要求

<https://www.edaily.co.kr/news/read?newsId=01325126632457824&mediaCodeNo=258>

学校暴力嫌疑イ・ヨンハ、キム・デヒョン、検察はどんな根拠で起訴したのか

<https://isplus.com/2022/09/08/sports/baseball/20220908003402887.html>

スポーツ倫理センター、障害体育人対象の「約2万人」実態調査

<http://osen.mt.co.kr/article/G1111938874>

あなたの選手は元気ですか？

<http://www.rookie.co.kr/news/articleView.html?idxno=77195>

ゴルフクラブ販売 82%急増…流通業界、秋の「スポーツ大祭典」開く

<https://www.joongang.co.kr/article/25101036>

エリザベス女王死去に…英スポーツ日程中止など「哀悼の波」

<https://www.hankyung.com/international/article/202209092389i>

全世界のスポーツチーム価値1位は7年連続NFLダラス

<https://www.yna.co.kr/view/AKR20220909034500007?input=1195m>

韓国 e スポーツ協会 「3 級 e スポーツ審判資格研修」 教育生募集

https://newsis.com/view/?id=NISX20220907_0002006104&cID=13008&pID=13100

オーストラリアメディア 「兄弟福祉院パク院長家族、140 億台のスポーツセンター所有」

<https://www.yna.co.kr/view/AKR20220905085400104?input=1195m>

体育市民連帯オンライン 定期後援案内

万人が楽しむスポーツ世界、体育市民連帯が共に作ります。

私達連帯の活動に積極的に賛同していただくことを願います。

私たち体育市民連帯は体育人の権益保護と
福祉実現のために努力しています。

皆さんの小さな心づかいがより良い世界のための
体育市民連帯活動に強固な土台となります。

体育市民連帯会員として力になろうと
される方は下の口座に後援お願いします。

国民銀行 086601-04-095940

口座名義：体育市民連帯

オンライン定期後援は下のリンクを通じてホームページからできます。

多くの関心をお願いします。

INFOMATION

体育市民連帯 ソウル市 瑞草区 瑞草洞 孝寧路 230 スンジョンビル 407 号

Tel : 02-2279-8999、E-mail : sports-cm@hanmail.net ホームページ : <http://www.sportscm.org/>

日本語訳：佐藤好行 新日本スポーツ連盟 国際活動局 韓国担当 jr1fep@gmail.com

週刊ニュースレターバックナンバー（資料室） <http://www.vg.jpn.org/sportscm/index.html>